

5/22 新型コロナウイルスの収束を願い
千歳駅前広場の花壇を彩る



今年も、千歳駅前広場の花壇に色とりどりの花が植えられ、通行する人の心を癒やしています。作業を行ったのは、《千歳花倶楽部》を中心に《千歳市環境整備事業協同組合》などの皆さん。紅白の《ペコニア》やオレンジ色の《マリーゴールド》、《ブルーサルビア》など1,200株を植栽。例年よりも少ない人数での作業で、手洗いの徹底など感染防止対策を行いながらの作業でしたが、参加者は仲間との久々の共同作業を楽しみ、マスク越しに笑みを浮かべていました。

5/27 ヒメマス 6月10日の稚魚放流に向けて
稚魚の《ひれ切り》はじまる



ヒメマスのふ化増殖事業に取り組む支笏湖漁業協同組合は、5月18日から稚魚の《ひれ切り》をはじめました。ひれ切りは生態の調査・研究を目的に放流した年を識別するためで、6月10日に予定している18万5千匹の放流に向けて、急ピッチで進めています。例年は、8人で作業にあたりますが、今年は新型コロナウイルス感染防止のため、人数を5人に減らして実施。体長5センチほどに成長した稚魚に対し、スタッフは「活きがよくて切りにくい」と話しながらも、手際よくひれにハサミをいれていました。

5/15 世界文化遺産登録を見据え
キウス駐車場の拡張、整備が完了



縄文時代に造られたキウス周堤墓群（中央地区）は、《北海道・北東北の縄文遺跡群》として、令和3年度の世界文化遺産登録をめざしています。市は、歴史的・文化的に価値が高い史跡を保存し有効活用するため、駐車場や案内看板などの整備に向けた暫定的な《整備基本計画》の策定を行います。5月15日には、駐車場の拡張、整備が終了し、バス3台と乗用車35台分のスペースを確保。同遺跡の世界文化遺産登録は、今後、《イコモス（ユネスコの諮問機関）》による現地調査を経て、来年夏に審査される見通しです。

5/26 新型コロナウイルス感染症に負けず
牛乳の安定生産をめざして



長都で酪農業を営む木谷冬馬さんは、乳牛のエサになるデントコーンの播種（種まき）が終わり、一息ついたところです。「動物を扱う仕事のため休みは少ないですが、良質な牧草の収穫や牛の健康管理、安定した生乳生産など一つ一つの仕事をきっちりこなせたときに、やりがいを感じます」と語ります。新型コロナウイルス感染症の影響で全国的に牛乳の消費量が落ち込んでいるそうです。酪農家の方の努力と乳牛に感謝し、エールをおくりましょう。

5/22 公立千歳科学技術大学との連携 オンライン学習をサポート
学びを止めない インターネット上の学校



休校中の市内小中学生の学びを止めないために、市教育委員会は、公立千歳科学技術大学と連携し、インターネットを活用した学習教材《eラーニング》と同大学の学生ボランティアによる《学習サポート》を行っています。学習サポートは、小学生を2学年ごとと中学生の計4クラスに分け、週1、2回実施しています。eラーニングの申込者数は5月27日時点で178人、うち88人が学習サポートも申し込んでいます。子どもたちは、学生ボランティアとコミュニケーションをとりながら自宅での学習を楽しんでいました。

5/14 新型コロナウイルス感染防止対策をして再開に備える
貸し出しを待つ本がずらり



休館で貸し出しを停止した図書館には、書架に入りきらない本が所狭しと並んでいます。返却後は、書籍専用の消毒液で拭き、丁寧に配架しています。新型コロナウイルスに関する理解を深め、適切な行動をとってもらおうと感染症に関する本を集めたコーナーを新たに設置しました。再開後しばらくは、閲覧室など一部の利用を制限し、貸し出しと返却のみの対応となります。中川館長は、「密集・密接・密閉を避け、マスクを着用するなど新しい生活様式を取り入れて図書館にお越しいただきたい」と呼びかけます。

5/22 YouTubeで魚の様子を動画配信
自宅で楽しむ水族館



サケのふるさと千歳水族館では、動画投稿サイト《YouTube（ユーチューブ）》を活用して、魚たちの様子を紹介する動画配信を行っています。大水槽の定点撮影のほか、餌やりの様子などを随時配信。複数のカメラで撮影した映像を同時に配信し、異なる視点で魚の姿を楽しめる工夫を凝らしています。このほか、千歳川の水中をのぞける観察ゾーンでは、スタッフが解説をライブ配信。菊池館長は「水族館に来ることができない方にも、さまざまな視点で魚たちの様子を楽しんでいただければ」と話します。

まちのできごと・マンスリーでお知らせします。

